

校長通信

Morifun

10月17日(土)には岩手山で去年より8日遅く、平年より4日遅い初冠雪が観測されました。季節はいよいよ晩秋から初冬へと移り変わっていきます。熱中症対策で授業中には外していたマスクも、食事以外には着用するよう心掛け、コロナだけではなくインフルエンザにも気をつけたいと思います。総合型選抜入試、民間就職試験が始まり、学校推薦型選抜(従来の推薦入試)の願書受付もスタートします。3年生にとっては正念場を迎える時期となります。1,2年生も頑張る先輩方にエールを送るとともに、より充実した学校生活となるよう目標を持って臨みましょう!

<県高総文祭総合開会式>

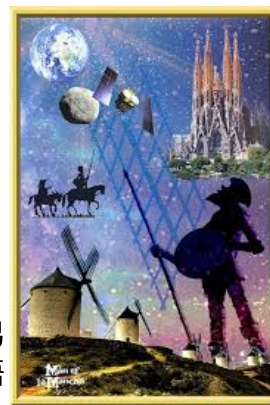


10月9日(金)盛岡市の県民会館で第43回県高校総合文化祭の総合開会式が行われました。コロナ禍のため、残念ながら例年式典で行う合唱や演技は中止となりましたが、本校生が中心となって生徒企画委員を務め、委員長の久保輝夕(2年)さんが「新型コロナウイルスのためにさまざまな制限がありますが、さんさ踊りや石割桜のように、困難に負けずに活動を続けていくことが、文化を守る、ひいては歴史の一部となり、未来を作っていくことにつながっていくと思います。」と力強く歓迎のことば述べました。当日は、文化部を中心に約50人の生徒が係を務め、最後には連盟旗を来年度開催の釜石高校の代表者に引き継ぎ、つがなく式典を終了することができました。

<芸術鑑賞会>

10月13日(火)にマリオスで芸術鑑賞会が開催されました。今年度は劇団笑う猫によるミュージカル「夢果てるとも～ドンキホーテの生涯」が上演されました。例年であれば、保護者にもお声がけをするのですが、感染症対策として、密を防ぐ形で座席をそれぞれ一つ空け、生徒と教職員のみでの鑑賞となりました。

所は、スペイン・アンダルシア地方。夢を追うことに疲れた人々が集う場末の宿屋。そこへ、ミゲールがサンザと共に入ってくる。彼は、かつて国王のお気に入りの役者でありながら、今はお尋ね者。理想と現実を謳い文句に、人生の中における真実を問うことで追われる身となった彼を、宿屋の連中は馬鹿にし笑いものにする。『芝居なんてのはただの絵空事。絵空事に真実などありはしない』『金こそがこの世の真実』『金こそが人生』だと笑い飛ばす宿屋の人々。そんな連中を相手に、ミゲールはある男の物語を演じはじめる。騎士物語



を読みすぎて現実と妄想の区別がつかなくなった田舎騎士”アロンソ・キハーノ”。キハーノは、自らを「ドン・キホーテ」と名乗り、従者「サンチョ・パンサ」を引き連れ、遍歴の騎士への旅へ出る。一方、カラスコは、気の触れたキハーノを連れ戻そうと荒治療を試みるが…。

役者の皆さんも感染症対策としてマウスシールドを付けての演技でした。歌いくいと思いましたが、さすがそこはプロ集団、見事な舞台となりました。

<全校礼拝より>

旧約聖書 創世紀 第9章 8節~11節

神はノアと彼の息子たちに言われた。

「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」

新型コロナウイルス感染拡大で今年は大変な年ですが、ちょうど3月辺りから感染が拡大し、8か月ほど経ったわけですが、この間マスクをつける、距離を取る、オンラインの導入など、当初は戸惑うことばかりでしたが、それが日常生活の一部にもなってきました。一方で最近耳にすることは、4月、5月頃には緊張し、疲れや心の負荷もあったわけですが、それには気づかず、今頃ちょっと状況が落ち着いてきたとき、どっと疲れが出て、心が落ち込んでいる人がたくさんいるということです。岩手では比較的感染者が少ないのですが、ずっとストレスで緊張してきたわけですから、これからも自分の心と体を大切にしてほしいと思います。

この8か月を振り返って、色々なことを考える機会が与えられました。私たちの社会のもともと持っていた色んな課題や問題が、新型コロナウイルスを通して浮き彫

りになったと思います。例えば感染者への誹謗中傷、差別など、急にこのような問題が発生したというよりも、もともと社会が抱えていた問題が浮き彫りになったと考えられます。環境問題も取り上げられるようになりました。私たち人間は自然界の一部であるわけですが、私自身そのようなことを忘れて過ごしていることに気がつきました。改めて私たちは神が作った世界の自然の一部であることを思い出すことになりました。この創世記は有名なノアの箱舟の物語ですが、この物語の締めくくりに神が登場して、改めてノアと地上のすべての生き物と約束をします。こういう洪水は二度と起こさないと。ここで注目したいのが、その約束が人間たちだけでなく、動物とか植物とか地上の生き物すべてと約束を果たすということです。聖書というと人間が中心のようなイメージがありますが、この創世記の部分では人間だけでなく全ての命と神は約束を結ぶことが語られているのです。この点をハッと思いだしたここ数ヶ月でありました。私たちは人間だけで生きているのではない、色々な生きているものと関係しながら生きているわけですが、そういうことを忘れ、何か自分たちに都合の良いように、他の命を搾取し、動物や生き物の命を軽んじてきたことを思い返すわけです。その結果、異常気象やこのコロナのようなものが発生しているなど、関連して起こっているように感じます。ひとつキーワードとして「命の尊厳」という言葉を考えてみたいと思います。尊厳というのは掛け替えの無さ、つまり代わりがきかない、ただ一つの存在。その尊さを言います。命というのも私たち人間だけでなく、様々なものの命、掛け替えの無さを考えてみました。この「命の尊厳」は今コロナの危機を体験した私たちにとって思い起こす大切なキーワードになると考えます。私たちの目の前には命を傷つけてしまう、また人と人とが傷つけあったりする現実があります。普段から「命の尊厳」ということを大切に生きていくことをこれから一緒に考えていきたいと思います。

(10月20日全校礼拝 花巻教会牧師・鈴木道也先生)



<部活動の活躍から>

今月も各部が様々な活躍をしてくれました。まず、陸上部は高校駅伝予選で堂々の2位入賞を果たし、東北大会に駒を進めました。来月の日報駅伝も期待大です。柔道部は新人大会、準決勝でライバル盛岡中央を僅差で破るも、決勝で盛岡南に後塵を拝し2位。来月の県選抜でリベンジに燃えます。秋季大会県3連覇の野球部は東北大会、初戦の2回戦で敗退、残念ながら選抜出場はなりません。この冬を乗り越え、夏に勝負です。サッカー部は選手権大会で3回戦まで駒を進め、ソフトテニス部は城内・下田ペアが東北私学大会でベスト16、あと1勝で全国大会でした。どの部にも乗り越えなければならない壁が存在するようです。目標に到達するためには何が必要なのか、自ら考え、行動に移し、勝ち抜く力を付けてほしいと期待しています。

- 【陸上部】高校駅伝県予選会 (10/22)**
 第2位 2時間10分21秒 【1区 大宮大虎①区間新 2区 若林夢希② 3区 佐藤碧①区間新 4区 武蔵旭② 5区 清水畑永和② 6区 佐々木稼全② 7区 折戸元希②】
- 【柔道部】県高校新人大会 (10/16~17)**
 団体 第2位 2回戦5-0 盛岡商 準々決勝3-1 福岡工 準決勝2-2 (内容勝ち) 盛岡中央 決勝2-3 盛岡南

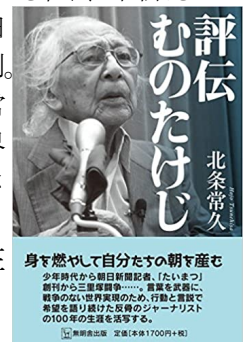
個人 60kg級③安部将矢 66kg級①勝田隆暖 73kg級③伊藤匠 90kg級①土屋琉空 ③佐藤真将 100kg②菊地悠希 ③相場啓吾 100kg超級①熊谷恒太

【サッカー部】高校選手権大会県予選 (10/10,16~17)
 1回戦1-0 一関工 2回戦5-0 黒沢尻北 3回戦0-8 盛岡商

【野球部】秋季高校野球東北大会 (10/14)
 2回戦7-10 羽黒 (山形第2)

<「評伝 むのたけじ」を読む>

21歳で報道の世界に入り、101歳で亡くなるまで、日本の戦前戦後を鋭く見続けたジャーナリスト。むのは大正4年(1915年)秋田県の小作農民の家に生まれる。働いても働いても、貧困から抜け出せない絶対的格差の中で働く両親を目の当たりにして育ち、「社会の仕組みを変える」と決意。東京外国語学校(現・東京外大)へ入学、報知新聞を経て昭和15年朝日新聞社に入社。従軍記者として戦場を目の当たりにする。昭和20年、「負け戦を勝ち戦のように報じて国民を裏切ったけじめをつける」と終戦の日に退社。「ジャーナリストは何が出来たのか」「どうすれば人間が幸せに暮らせる社会が出来るのか」二つの命題を胸に、故郷の秋田に戻り週刊新聞「たいまつ」を創刊。読者とともに作る新聞を目指し、常に生活者の視点から日本そして世界を見つめ、鋭く深い思索に裏打ちされた言葉を紡ぎ出してきた。「戦争絶滅」を訴え続ける姿にただただ圧倒されるばかりである。



今月の言葉

「学ぶことをやめれば、人間であることをやめる。生きることは学ぶこと、学ぶことは育つことである。」(むのたけじ)